

資料

(1)「初発の感想交流」で読みが主体的になったか(自分にひきつけて考えたり、その生徒なりの読みができている)の検証例図

「初発の感想」●配慮生徒○中位群 上位群	電子掲示板交流後の感想
● セリヌンティウスがメロスを信じれてすごいと思った。メロスが山賊を倒したのがすごかった。メロスが流れの強い川を泳いだのがすごかった。メロスがあきらめないで走ったのがすごかった。 ● 間にあってよかった。 ○ 友達のために、何事にも負けずに走り続けたのがすごいと思った。途中から友達を疑ったけど、最後は決心して城に行ったのが感動した。 ○ 私は友を思う気持ちがすごく伝わってきました！一言一言がとても心に深く心に響くような感じがしました。 僕は、「走れメロス」を読んでみて、メロスという人物が不思議に思えました。メロスは暴虐の王がいる町に住んでいるのではないし、自分とは関係のない待ちのことについて何で命をかけられるのだろうか？いくら正義感があるとはいえ、自分に何の利益がないことに対して何で必死になれるんだろう？と疑問に感じます。 正義だとか、愛だとか、信頼だとか、信実とは何かとても深いものを作者は訴えようとしているのだと思った。	● お互いが強い友情で結ばれていると思った。僕もこのような親友が欲しい。僕がメロスなら友達＝親友を裏切らないぞ。 ● メロスは王の考えがおかしいと自分の命と引きかえに殺そうとして捕縛されたがそれでも人を疑っていない。うそをついてはいけないという信念を貫いたことが、すごく感動して僕も一つそんな信念を持って男らしく生きたい、悪いことをしている人を許してはいけないと改めて思い、これからこういうことを考えながら生きて生きたいと思いました。 ○ メロスが走ったのは友情のためだけでないことに気がついた。 ○ 自分も友を信じれて、友も自分を信じれるそんな存在になりたいと思いました。 これは作者の皮肉ではないだろうか？やや不自然なところが多い話だったが、自分にはできないことだからこそ、そう感じたのだと思った。おそろしく大きいものとはいったいなんだろう？授業を通して考えてみたい。 作者はメロスの言葉を借りて、人間全体が頑張っているように訴えたのだと思った。メロスは人類全体の真実を背負って走っているのだ、キリストみたいのものかなあ？。

「初発の感想」は、生徒自身が気がつかないうちにも、自分の問題意識・追求したいテーマ・深めたい読みを内包している。それを「交流」して他との違いを意識しながら自分の読みを修正したり、自分に引き付けたりして深めている様子がわかる。最初の留意生徒は、「すごい」「すごい」の連発で、メロスの表面的な行動にしか眼が向いていなかったが、掲示板での交流で他の級友から「何がすごいのか？」というアドバイスメールを受け取り彼なりに考えて、その行動を支える「友情」という心の面に注目し「僕がメロスなら～」という視点が生まれている。次の留意生徒は、最初「間に合ってよかった」という事象面のみ注目していたが、掲示板での他の生徒の感想一覧を読んでいううちに自分のこれからの生き方に読みを深めていった。最初の短い「間に合ってよかった」という一言には、彼の問題意識が潜んでいたと考えて良い。中位群の生徒は、ともに「友情」に注目した型どおりの読みであるが、の生徒は、短いながら「メロスが走ったのは友情のためではない」というコメントを発してお

り今後の読み深めの展開が期待される。 の生徒は、自分の友達関係に引き付けて考えようとしている。上位群 の生徒は、この小説の不自然さに批判的な読みを提出しており、作者の皮肉であるとも考えている。クラス全体で進むべき方向ではないが、大切にしていきたい。案外事実はそのなのかもしれない。

の生徒は、すでにし「初発の感想交流」の段階ですでに主題に肉薄しているといえる。今までは、初発の感想は、次時にプリントで行っていたが、これではせっかく萌芽しかけてきた問題が冷めてしまい一度思考は停止してしまいーからやり直しらなってしまう。う。なんといってもこれらがリアルタイムに思いがさめないうちに行えるコンピュータの良さを実感した。

(2)本時の展開(第5時)の問答の例(丸数字は、類型別に分類したもの)

【フィロストラトス】

あなたの考え方が私にはまくったくわかりません！！本当に人の命なんてどうでもいいというのならば、セリヌンティウス様のお命などどうでもいいとでも！

→

もう間に合うわけないのにー。私だったらそんなことしてまでもして走ったりしませんよ。そんなに間に合うために必死で走るのだったら、なぜ最初からそんな大事な友を身代わりにしたんですか？本当にあなたって矛盾している人ですよ。信じられません。

→

もう間に合いません。あの方は死刑になるのです。なのになぜそこまでして走るのですか？人の命のために走るのではないのですか？命より大切なものなんてないのでは。。

→

人の命より大切なものがあるものか。命さえ助かればいいではないか。あなたはそれ以外に何を望む。もし、人の命以上に大切なものがあるとしたらそれは何だ答えられるものなら答えてみる。

→

そんなにぼろぼろになるまで走ってももう間に合いません。あなたを信じて待っていたあの方は、殺されてしまいます。何のためにそこまでして走るのですか！？

→

【メロス】

自分でも良くわからないが、何か人類全体の宿命を背負って走っている気がするんだ。

もう間に合わないかもしれないが、私が必ず来ると信じてくれる人がいる！だからその期待を裏切らないためにもこうして走り続けなければならないんだ。

私を信じている彼のためだ。間に合うように走らなければ。たとえ、間に合わなくても一緒に死ぬんだ。それが私を信じてくれた友へやらなければならないことだ。はぁはぁー今いくぞ。

私を信じて待ってまってくれている人がいるからだしそれだけでなく、私は自分自身の心に勝ちたいのだ！！途中で投げ出そうとしたあの情けない心！私は親友の命を捨てようとしたのだー。もうあんな情けない自分には戻りたくない！今もし走りきって自分の心に勝つことができたならー。私はもっと強くなれるような気がする！

何でって・・・えっ徒・・・あっ沿う・・・名誉と王様に人を信じる強い力(友情)見せつけるためさ！！そっそ・・・それに比べれば命なんていらねえくらいさ。待ってるよ・・・王様。

必死に走るメロスにフィロストラトスが「もう間に合わない」から「走るのをやめてくれ」と追いつめる。フィロストラトスは、途中であきれて問いかけをやめてしまうが、あえて、さらに突っ込んだとしたらどんな問いかけになるか考えさせた吹き出し。生徒の問いかけを分類すると大きく四つに分類できる。まったく理解不能。改めてもう間に合わないと訴える。人の命より大切なものは何かという問いかけ。 どうしてそこまでして(自分の命を捨ててまで)走るという問いかけ。フィロストラトスになりきるということや読み取りの深さは であって欲しい。が、問いを待ち受ける生徒は、どんな問いが送られてくるかわからない。興味津々多少の緊張感と楽しみを持って問いかけを待ち受け、必死に答えを考えていた。当然答えの深まりも、問いに応じなければならず、問いに左右されるが、走っ

ている場面の臨場感やメロス（＝読者＝生徒）が走っているような体験はできたと思われる。

(3)それぞれの「吹き出し」は、作品世界への没入に資したかの検証図。

場 面	なりきったと思われる吹き出し ●配慮○中位 上位
メロスはなぜ激怒したのか？ の吹き出しの作成	●ああああの～ひひひ人を殺すのは悪いと思います。ちょちょちょ調子に乗ると・・・俺がお前を殺すぞ。いいい今なら間に合うと思います。ちょっと考えてみたらどうです。○なぜこの町の王は人を殺すのだ？なぜ自分の私利私欲のために自分の町の民を苦しめるんだ？暴君の王など生かしておけぬ。私が殺してくれる。 何!?この町の王はとんでもない暴君だ。人を疑うこと自体最も恥ずべき悪徳なのに人まで殺すのか？私は町の人のことを大切に思わない王は認めない。そんな王は生かしておけない。暴君よ。このメロスが懲らしめに行ってやる。
ディオニスはなぜ人が信じられない？の吹き出しの作成	●疑うのが本当の心構えだとわしに教えてくれたのはお前たちだろうが？お前らにわしの気持ちがあったたまるか？ ○人を信じて何になるというのだ!?わしは妹婿に裏切られてすんでの所で殺されそうになった。その後も友にも妻にも兄弟にも裏切られた。みんなわが身が大事なのだ。この城の中で誰かが何かをたくらんでいるかもしれない。夜もおちおち眠れはしない。
山賊は本当に王の命令で待ち伏せていた？の吹き出しの作成	黙って聞いている。俺にはつらい過去がある。俺を信頼していた親友に裏切られたのだ。それから人が信じられなくなった。その親友に裏切られたお返しに、今人を殺している。そして恨みを晴らしているのだ。この町を支配し平和に町にするのだ。これが俺の平和だ。メロス、お前が、三日後に帰ってくるとは思えない。またこいつも裏切られる運命か？はっはっはっ、その時にわしの言った本当の意味がわかるだろう。 ●・・・ああそうだよ。だから、なんなんだ。悪いがお前にはここで死んでもらう。 ○よくわかったな！俺は王の家来だ。王に頼まれてメロスが走ってきたら殺せと命令されているんだ！殺さなければ俺が王に殺されてしまうなんとしてもお前を殺して、王からほうびをもらわなければ・・・。 王？何のことだ？俺はただお前の命が欲しいだけだ。だ、誰も王の「メロスの足を止めて来い」という命令なんか聞いていないぞ。
泉を飲んだメロスはなぜ甦った？の吹き出しの作成	●おおおおお！復活したぞおお！生き返ったぞおおおお！友よおおお！今行くぞお ○私は今まで何を考えていたんだあ。これではセリヌンティウスに合わせる顔がないではないか！こうなったら王の言いなりなどにはならぬ。私は友のために走り続けるのだあ・・・。(ガバ・・・タッタッタッタ・・・) わが身が生き返るようだ。・・・この清水が、私に希望を与えてくれるのか。友を救うために走れというのか。いずれにしろありがたい。疲れが取れていく。ここで諦めてはいけない。ここで尽きてなるものか。セリヌンティウスのため、人々の期待に応え

P 9 2 L 1 5 『走れメロス』 とは、「誰の声で何のための 声だろう？」(作者太宰治に なりきる)の吹き出しの作成	るために走ろう。 ● この話を書いているうちにメロスが俺自身になって思えてきた。一度はくじけたメロスがまた立ち直る……。だが今の自分は、……。こんな自分のままでは駄目だ。だから、この「走れメロス」は、俺自身に向けた言葉。。自分を励ますために……。 ○ 俺は、「走れメロス」の中の、暴君ディオニスみたいなものだ。俺も人を信じられないから、メロスとセリヌンティウスのように人を信頼したいからこの作品を書いたんだ。俺のように人を信じられないのはつらいものだ。 ○ 俺はいったい何をしているんだ。心中で二人も殺してしまい、おまけに3回も自殺を図るなんて……。どうかしている。いい加減われへ返れ……。そうだ!本を書こう!そして今度は暗いものではなく、自分を励ませるものを書こう。 『走れメロス』本当は、メロスに対して言ったのではなく俺自身に訴えている。俺の正義の心を自分でも応援していて本当は破滅や悪の悪い心を追い出し、自分自身に勝利し正義で素直な心を持つすばらしい人間になりたいんだ。……。メロスの勝利は、自分の心への勝利を意味する。
--	---

研究のまとめと今後の課題

本研究での成果は次のとおりである。

- 意欲が格段に高まった。生徒はコンピュータ使う授業を楽しみにしていた。普段意欲が低い生徒も自ら進んで意欲的に取り組み、話し合いに参加し掲示板の交流に加わっていた。発問の後、考えがまとまるとキーボードをたたき音が静まり返ったコンピュータ室中に響き渡った。第一の目標、「主体的に」取り組む目標は達成された。アンケートで「苦手の国語が苦手に思われなかった」と答えた生徒も数多い。
- コンピュータの操作状況は、全く問題がなかった。機器を使いこなす力はかなり高いものがあるので、抵抗なく取り組めた。生徒はかなりコンピュータに熟練しており、操作に抵抗があると答えた生徒は、全くないが各クラス一・二名である。技術科の授業の成果や家庭でのコンピュータや携帯電話の慣れ親しみが、大きいと驚かされた。「なりきり君」の吹き出しの入力のキーボード操作はもちろん、心配された吹き出しから電子掲示板へのコピーアンドペーストもほとんどの生徒がマスターしておりスムーズに活動が進められた。「……」などの記号を取り入れられて活用できる生徒が多かった。
- 叙述を追っていくという国語科本来の展開の上からもベストであったのではないかと発問自体もわかりやすく参加しやすい形であった。
- 普段遠慮していて発言しない生徒や性格的に恥ずかしがる生徒が数多く掲示板で積極的に発言している姿に驚嘆させられた。また予想もしない考え方をしていることがわかったり全員参加の授業が成立した。授業後の満足感が大きく上位の生徒も留意する生徒も全員取り組んでいた。
- 生徒の形成的評価が容易で効果的な支援が可能である。教科書・ノートの授業ではわかりにくいものが、教師機の巡回で容易に把握でき、その生徒の後ろに立てばコンピュータのディスプレイで確認しながら効果的な助言ができた。また指導の経過や生徒の学習結果が記録に残るので良い。音声言語だとその場ですぐ消えてしまう。その記録方法が簡単で手間がかからないので良い。
- コンピュータの導入により、国語的な支援が効果的にできた。進度も早くテンポよく進められた。従来生徒の発言は、一人につき一回である。が電子掲示板では、「この叙述に注目してごらん」「この生徒の投稿を読んでごらん」と一度に様々な生徒の意見に触れられその違いも一目瞭然なので、

生徒の思考の速度もかなり加速されていた。生徒の疑問や課題や深めたい意識に即座に対応でき、読みが熟成されていったと考えれる。また一人一人が納得のいくまで何度でも返信(レス)を用い一対一で考えをぶつけ合えるので周りに気をを使うことがなかった。そしてその交流の状況は掲示板で見ることができるので、その生徒同士ではなく、全員で共有できた。この点は、コンピュータの機能が生かした点ではなかったかと考えている。

- 「文学体験」は、ある程度達成されたと考える。生徒にとってコンピュータ室は、それ自体異次元空間になっていた。「読む」という行為自体が疑似体験になるのだということを感じた。自分の読みに入るということは、文学作品の世界の中中に入り込むということである。自分はこう思うという思い、自分のこだわりが出てくる。そういう読みができる生徒を育成したかった。それをぶつけ合うことでさらに広がったり深まったりした。

授業展開上で、フィロストラトスとメロスのやり取りを生徒同士の問答に置き換えたのが大変よかった。フィロストラトスになりきった生徒から、メロスになりきった自分に問いが届く。しかも誰の問いが届くかわからない。どんな問いが届くのか、ある程度の緊張とスリルがあり必死に答えようと真剣に考えようという姿勢が、作品世界中への没入を可能にしたと考える。作者太宰治に関心を抱いたり、太宰の他の作品を読んでみようという生徒も多かったし、武者小路実篤の「友情」を読んでみようという生徒が数多くいた。「走れメロス」を自己超克の物語と読んだ生徒は、同じテーマを扱った小説を紹介して欲しいと聞きにきた。文学というものは、今まで難しい高級なものだと思っていたが、「人生(人間)いかに生きるべきか」を教えてくれたり考えさせてくれるものだと思ったという生徒がいたのは、大きな収穫である。

また、今後の課題としては、次のようなことがあげられる。

- ほんの少数であるが、携帯電話もパソコンも持っていない生徒は操作に抵抗がある。コンピュータ技能の個人差にどのように対応したらよいか?この生徒につきっきりになってしまうと他の指導ができない。どのような手立てをとったら良いか?
- 電子掲示板の一覧ツリー表示の情報の多さに圧倒されてしまい、どこから手をつけたらよいのか。うまく活用できない生徒がいた。
- コンピュータ特有のいたずら、ひらがなの繰り返しや「オー」とか「ウー」を連発する生徒がいた。厳しく注意したためか人を傷つけるような、情報モラルに触れるようなやり取りはなかった。
- 展開上で、意見が分かれるような・判断が分かれるような重要な箇所でのコンピュータを用いた活用の仕方を今後検討していきたい。ウェブ上で討論するのも一方法であると思う。
- やはり国語は、紙と鉛筆で肉声で語るべきものだというのが依然としてある。口頭の発表の学習が大切な国語の学習になると考えるからである。しかしそれは、生活言語のレベルであり、文学教材の学習として特化しての情報教材としては、方向は正しいものと確信している。
- 研究を継続していき、他の文学教材、詩や短歌・俳句などにも活用できるソフトを増やして行きたい。そして一主体的な読みの成立と作品世界に親しみ、感動を深める体験を通して一のような研究に深めて行きたい。